

第2節 健診の実施状況及び病床数等の現状

本節では、本計画で掲げる目標に関連する状況を述べていきます。

1 健診の実施状況

(1) 健診受診率^(注1)

「平成16年 国民生活基礎調査」(厚生労働省)における東京都の健診受診率(40~74歳)は66.9%となっており、全国平均(64.5%)を上回っています。受診の機会別に受診率を見ると、区市町村で行う健診が27.3%、職場における健診が24.6%となっています。(図表2-2-1)

また、「平成18年 都民健康・栄養調査」(東京都)における都民の健診受診率(40~74歳)は、71.9%となっています。男女別に受診率を見ると、男78.0%、女66.3%となっています。(図表2-2-2)

図表2-2-1 東京都の健診受診率(40~74歳)

(単位:%)

区分	40~74歳 受診率	受診の機会別受診率(%)			
		区市町村で 行う健診	職場に おける健診	人間ドック	その他
東京都	66.9	27.3	24.6	7.6	11.0
全国	64.5	24.4	26.1	7.1	10.6

(※) 複数回答のため、機会別受診率の合計と「受診率」は合致しない。
資料:「平成16年 国民生活基礎調査」(厚生労働省)

図表2-2-2 都民の健診受診率(40~74歳)

(単位:%)

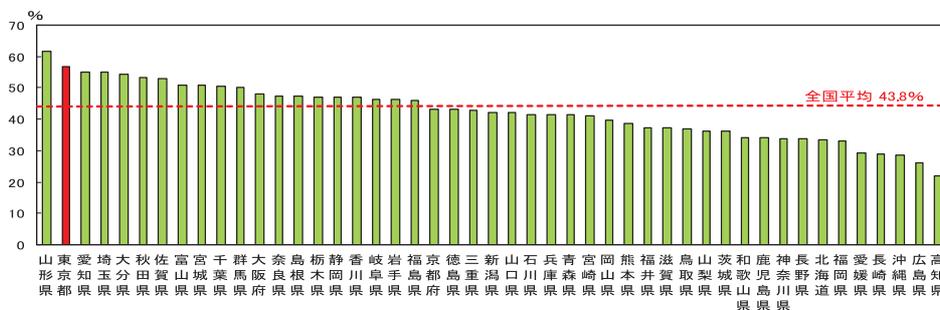
区分	40~74歳 受診率		
		男	女
東京都	71.9	78.0	66.3

資料:「平成18年
都民健康・栄養調査」(東京都)

(2) 基本健康診査受診率

老人保健法に基づく基本健康診査の平成17年度における東京都の受診率^(注2)は56.7%となっており、全国第2位と高い水準にあります。(図表2-2-3)

図表2-2-3 平成17年度 基本健康診査受診率(40歳以上)



資料:「平成17年 地域保健・老人保健事業報告」(厚生労働省)

- (注1) 自記式質問票の「過去1年間に、健診(健康診断や健康診査)や人間ドックを受けたことがありますか」の問いに、「ある」と回答した者の割合。病院や診療所で行う診療としての検査は、健診に含まない。
- (注2) 受診率=受診者数/対象者数×100 対象者数は、各区市町村内に居住する40歳以上の者(職域等における健診の対象者を除く)の推計値であり、受診者数は各区市町村における実績数値。

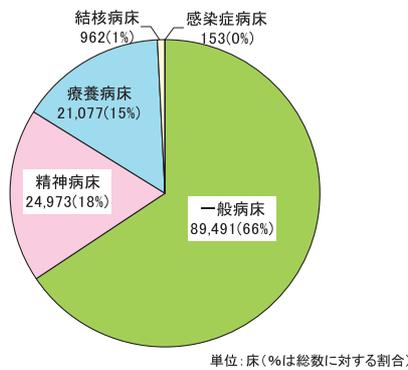
2 病床数の状況

東京都における病床数の状況は、以下のとおりとなっています。

(1) 病床種類別病床数

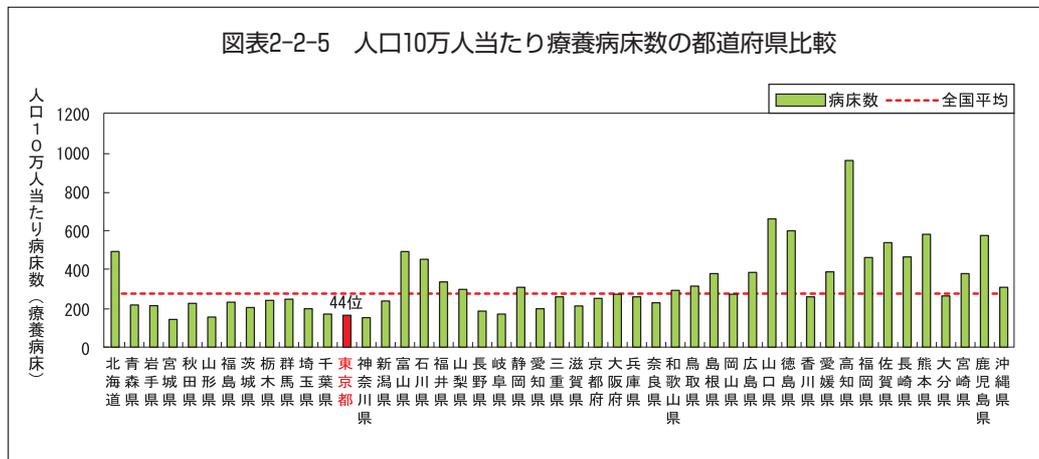
平成18年10月1日現在の東京都における総病床数は13.7万床であり、これを病床種類別に見ると、一般病床8.9万床、精神病床2.5万床、療養病床2.1万床などとなっています。(図表2-2-4)

図表2-2-4 東京都における病床種類別病床数



資料:「平成18年医療施設調査」(厚生労働省)

人口10万人当たりの病床種類別病床数を見ると、一般病床は656.3床で全国38位、精神病床は197.3床で同43位、療養病床は164.1床で同44位と、いずれも全国的に見て少ない状況にあります。(図表2-2-5)



(2) 療養病床の状況

都における平成18年10月1日時点での療養病床の病床数は、医療療養病床が約13,000床、介護療養病床が約8,000床、合計で約21,000床となっています。(図表2-2-6)

図表2-2-6 東京都の療養病床数（平成18年10月1日現在）（単位：床）

療養病床	医療療養病床			介護療養病床
		回復期リハビリテーション病棟の療養病床	回復期リハビリテーション病棟の療養病床分を除く	
21,033	13,122	1,202	11,920	7,911

出典：療養病床⇒「医療施設動態調査(平成18年10月末概数)」及び「病院報告」を基に厚生労働省保険局にて作成

回復期リハビリテーション病棟の療養病床⇒厚生労働省保険局にて各社会保険事務所を通じて調査

次に、東京都の療養病床における医療区分の状況を見ると、医療療養病床では「医療区分2」が約半分を占める一方、介護療養病床では医療の必要度が低いとされる「医療区分1」が約70%を占めています。

全国平均と比較すると、都は介護療養病床において、医療の必要度が高い「医療区分2」及び「医療区分3」の割合が高くなっています。(図表2-2-7)

図表2-2-7 東京都の療養病床における医療区分（平成18年10月1日現在）（単位：%）

	医療療養病床の医療区分			介護療養病床の医療区分 ^(注)		
	医療区分1	医療区分2	医療区分3	医療区分1	医療区分2	医療区分3
東京都	38.4	48.0	13.6	70.1	24.4	5.5
全国	35.4	48.3	16.3	75.1	20.9	4.0

資料：医療療養病床の医療区分⇒平成18年度「慢性期入院医療の包括評価に関する調査」(厚生労働省)

介護療養病床の医療区分⇒「療養病床アンケート調査」結果(平成18年10月 各都道府県実施)

また、平成19年7月に東京都が医療機関に対して実施した「療養病床転換意向アンケート調査」結果から見た都内の療養病床の状況は、以下のとおりです。

- 療養病床への入院患者全体の平均年齢は81.1歳（医療療養病床は79.4歳、介護療養病床は83.4歳）で、年齢階層別の分布を見ると、最も多いのは医療療養・介護療養ともに85～89歳の区分でした。
- 介護療養病床について要介護状態等の状況を見ると、要介護5が約60%で最も多く、要介護4と要介護5で87%を占め、要介護度の高い入院患者が多くなっています。なお、医療療養病床と介護療養病床を合わせても、要介護4、5で半数を超え、日常的に介護が必要な患者が多い状況です。

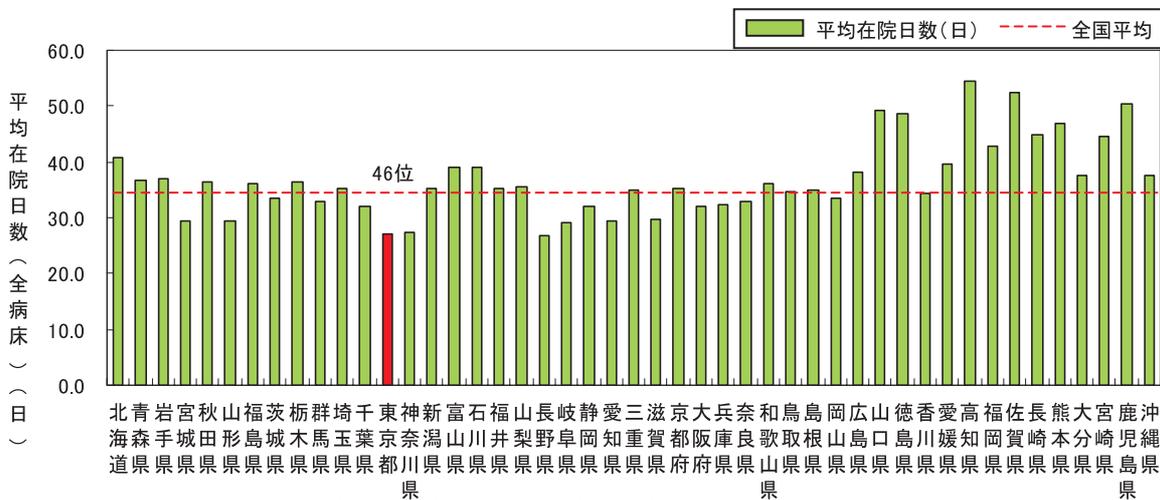
(注) 介護療養病床の医療区分は、アンケート調査における医療区分判定実施患者数を100として各割合を算出したものであり、医療区分判定を実施していない患者（東京都ではアンケート対象者の約72%）の状況は反映されていない。

3 平均在院日数の状況

東京都における平成18年の平均在院日数（全病床）は、全国平均34.7日に対し27.1日（全国46位）と、他道府県と比較して短くなっています。（図表2-2-9）

病床種別ごとに平均在院日数を見ると、一般病床17.1日（全国44位）、精神病床235.2日（同46位）、療養病床196.1日（同9位）となっています。

図表2-2-9 全病床の平均在院日数の都道府県比較



資料:『平成18年 病院報告』(厚生労働省)

また、東京都の平均在院日数（全病床）の推移を見ると、平成13年から平成18年までで3.9日短くなっています。（図表2-2-10）

図表2-2-10 平均在院日数（全病床）の推移

(単位: 日)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	H13→H18
東京都	31.0	29.9	28.8	28.5	27.8	27.1 (25.4)	△3.9
(参考) 全国平均	38.7	37.5	36.4	36.3	35.7	34.7 (32.2)	△4.0
(参考) 長野県 (最短県)	27.7	26.9	26.8	27.1	27.3	26.7 (25.0)	△1.0

(注) 「平成18年」の各欄の下段の()書きの数値は、上段の全病床の平均在院日数から、介護療養病床分を除いた数値。(平成18年病院報告公表時に厚生労働省保険局が都道府県医療費適正化計画の策定に資するために各都道府県に示したもので、平成17年以前のデータはない。)

資料:『平成13～18年 病院報告』(厚生労働省)